

地域ボランティアプログラム

松木日向緑地プログラム

竹林整備と第2弾：ストーブ

を囲んでの座談会

ご協力

加藤英寿先生

2023年2月12日（日）

報告

降雪後の緑地での活動

「地域ボランティアプログラム（松木日向緑地プログラム）」の活動として、松木日向緑地の竹林整備活動8回目を実施しました。当初は2月11日に実施予定としていましたが、2月10日の降雪により、活動は難しいと判断される状況であったため延期となりました。そのため、今回は4名（メンバー1名、サポーター3名）での活動となりましたが、当初10名以上の参加希望があり、みんなが楽しみにしていた活動でした。第2弾：座談会も加藤先生にご協力いただき、開催させていただきました。

集合後、今回の活動場所である13号館東側に向かいました。東側にある運動場はまだ一面真っ白な雪で覆われていましたが、南斜面の遊歩道から今回の活動場所については雪は殆どなく、暖かな日差しの中で活動を開始しました。

遊歩道には、雪の重みで倒れた竹や木々、枝葉が沢山散乱していました。まずは遊歩道上の木々などを伐採・除去して、歩きやすくなるような整備を実施し、その後約1時間、竹林整備に取り組みました。今回は参加人数も少なかったため、数多くの竹を伐採できたわけではありませんが、後半の座談会のために竹コップ・竹串作成、柄杓作成も行い、竹の利活用を考えながら取り組みました。

降雪の日を振り返る

降雪の日、サポーター同士で予定通り活動実施するべきか、延期するべきかという話し合いをしました。この検討は安全面を含め、自分たち自身で活動を考える大切な機会になりました。

竹林整備の様子



ロケットストーブ



楽しい交流



今回の活動場所 & 座談会



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

座談会でアイデアが出て来た！

「何をすればいいですか？」座談会開始にあたり、加藤先生に質問をしたサポーターがいました。「それを自分で考える」加藤先生は、そう応えられました。前回の座談会は「教えて貰う」受け身な形で開催しましたが、今回は自分たちで「どうすれば火がおこせるか」「どうしたら焼き芋がきちんと焼けるか」など考えながらスタートしました。

最初はうまく火がつかず、ついてもすぐ消えてしまうという状態でしたが、燃料にするものや炭ののせ方、ストーブの設置場所など試行錯誤し、どうにか安定して火がついた状態をつくることができました。「火おこし一つにしても失敗を繰り返して学んだことこそ身につく」という加藤先生のアドバイスを、全員で体感することができました。

焼き芋などしながら、「地域交流」について色々意見を出し合いました。その中で、まず自分たちがコミュニケーションの機会を作ることも大切だという話になりました。今日のような機会を1活動ごとに何か設けて交流し、その上で、みんなで「考えて、活動を創って」いこうという話になりました。

来年度へ向けて、活動のアイデアもたくさん出て来ました。

参加者の声

- ・ はしやしゃもじなど作れ、想像力豊かに活動できた。竹を切るだけでは得られない交流を得られるのだと気づいた。
- ・ 降雪の重みで歩道に倒れていた竹や木々を除去、歩道を整備することができた。竹林整備後の火起こしで、身の回りにあるもの（竹）で、必要な物（箸、串、へら、ひしゃく、コップ）を作り、考えて工夫する機会が得られたことが貴重であった。